

うだつの町並みを歩こう



にし阿波観光圏協議会では、池田の「うだつの町並み」をはじめとする阿波刻みたばこの歴史など、まちを歩きながら楽しんでもらうコースを検討しており、そのモニターツアーを1月23日に実施しました。市民ガイドが案内ツールとして作成したパペット「うだつ姫」も登場し、市民ガイドが約1.5キロのコースを2時間かけて案内し、モニターから様々な意見をいただきました。4月には、市民ガイドが観光客向けにデビューする予定だそうです。

大地震に備えて新築移転



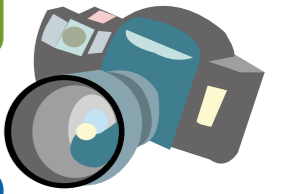
みよし広域連合西消防署（山城町）の新庁舎が完成し、1月20日に落成式がありました。昭和48年に建てられた旧庁舎は老朽化が激しく、大地震が起ると倒壊する恐れがあったため、今回新しく建築することとなり、場所も国道319号沿いの出勤しやすい位置に移転しました。庁舎は鉄筋コンクリート2階建てで、内装には地域の木材を多く取り入れています。この日の午後から9名の署員が3交代で、3名の常駐で業務をはじめています。

厳冬にできた自然の彫刻



井川町井内にあるご来迎の滝は、毎年寒さの厳しい日が続くと凍りますが、今年も1月中旬頃に寒い日が続いたので、見事なつららを見ることができました。この場所は陽があまり当たらず、暖かい日が続かなければ、この自然の彫刻をしばらく見ることができそうです。写真に映っているのは同行したケーブルテレビのカメラマンです。人の大きさと比較していただければ、どれだけ大きくて、迫力があるのか判ってもらえると思います。

まちかど フォト ニュース



おもしろいこと、珍しいもの、
どんなことでもいいので耳より
な情報をお知らせください。

三好市役所 秘書広報課
☎0883-72-7646

プロの指導に感謝

葛文也杯記念少年野球教室が1月24日に吉野川運動公園で開かれ、三好郡・市内の少年野球チーム9チームと池田中野球部が参加しました。

指導したのは、池田高校野球部OBで元阪神タイガースの宮内仁一さんや元阪神タイガース監督の安藤統男さん、元阪神タイガース投手の工藤一彦さん、アスレティックトレーナーの橋本恒さんでした。球児たちは、野球の基本を教えてくれる指導に、真剣に耳を傾け、大きな声で実践練習しました。



寒い中 熱い戦い



第6回国際雪合戦四国大会が1月30日から2日間、いやしの温泉郷グラウンドで行われ、4県から18チーム約200人が参加しました。積雪は無く、球用の雪のみ剣山付近から運んでの大会となりました。試合は1チーム7人で、敵陣の旗を奪うか、より多く雪玉を当てたチームが勝ちとなります。一般の部は奥祖谷かにくい隊（三好市）が2連覇、ジュニアの部では落合・菅生ブリザードアイ（三好市）が優勝し、地元チームが活躍しました。

100歳おめでとうございます



この度、渡邊ハルエさん（池田町白地ウマバ）が100歳のお誕生日を迎えられ、県や市から祝い状や記念品が贈られました。渡邊さんに長寿の秘訣を聞いたところ、よく食べて、よく寝て、よく働くことだそうです。渡邊さんは36歳の時に夫を亡くし、一人で8人の子供を育てました。そして現在は老人保健施設に入所していますが、入所前は畑仕事をしており、身体はとても丈夫だそうです。カラオケやお酒も楽しんでおられたようです。

災害時の情報通信を考える



地域防災力の強化と災害時の情報通信のあり方を考えることを目的に、1月24日、池田総合体育館において防災フォーラムが開催され、講演やパネルディスカッションが行われました。パネルディスカッションでは、徳島大学大学院の上野勝利准教授をコーディネーターに、出席したパネリストらから災害時の情報通信の有効な手段の1つとしてアマチュア無線が活用された実例が紹介され、今後の課題などが話し合われました。

今年も地域の安全守ります



三好市の出初式が1月10日、吉野川運動公園で行われ、48分団730人が参加しました。連合消防団長の訓辞や、一斉放水、火の用心三唱をしました。また、今年は山城町消防団第8分団による梯子操法も披露され、歓声があがりました。そして、池田町消防団第1分団が諏訪公園で、約110年の伝統を持つという「たる回し」を今年も披露。団員6人が3人ずつ二手に分かれて同時に放水すると、縄で縛った2つの樽が豪快に回りました。

商売繁盛を願って



商売繁盛を祈る池田えびす祭りが、1月10日に池田町のえびす神社で開かれました。この祭りは地域の活性化や伝統文化の保存を目的に行われているもので、不況のなか真剣に参拝をするたくさんの商店主らで賑わいました。参拝客は販売所で縁起物の飾りがついた福笹や熊手を買い求め、商売繁盛や家内安全を祈願しました。また、買い物をした方を対象にした福引や、ぜんざいの振る舞い、福投げなども行われました。

懸命のたすきリレー展開



第56回徳島駅伝が1月4日から6日まで3日間に渡り行われ、15郡市による県内一周コース（43区間257.3キロ）での熱戦を繰り広げられました。三好市チームも懸命のたすきリレーが展開されました。順位は最下位と不本意な結果となりましたが、様々なアクシデントを乗り越えて、選手全員で走り抜き、最終日までタスキをつなぐことができました。今年には特に中学生・高校生の踏ん張りが目立ち、次につながる活躍をみせてくれました。